

友 愛



【学校教育目標】・かしこく・やさしく・たくましく

「良き伝統の中に流れる「友愛」の絆を大切にしたい
心広く大らかな児童の育成」

◎2月の生活目標

・外に出て元気にあそぼう

卵はだれでも立てられる！

校長 三上 正明

昨年末からの新型コロナウイルス第8波に加え、インフルエンザのダブル流行も心配され、新年を迎えてからも引き続き緊張感のある毎日が続いています。また、1月下旬には数十年に一度と言われるほどの寒波がやってくるなど、例年以上に寒い日が続いています。学校においては、学校医と連携しながら、適切に子どもたちの健康管理と感染症対策を図ってまいります。各ご家庭におかれましてもお子様はもちろん、ご家族の健康管理にも十分ご留意いただきますようよろしくお願いいたします。

さて、ついこの前新年を迎えたと思っていたら、あっという間に一ヶ月がたち、間もなく「立春」を迎えます。まだまだ寒い日が続きそうですが、立春の前日である「節分」には豆まきで邪鬼を追い払って暖かな春を迎えられたらと思います。

ところで、立春にまつわる話に「立春の卵」というものがあります。1947年、立春の上海や米国で卵を立てる実験に成功した、というニュースが報道されました。この報道に疑問を感じて卵を徹底的に調べたのが、雪の結晶の研究で有名な物理学者、中谷宇吉郎博士でした。その経緯は、随筆「立春の卵」（『雪は天からの手紙—中谷宇吉郎エッセイ集』（岩波少年文庫））にまとめられています。その実験は、中国の古い本に「立春なら卵が立つ」と書かれていることが発見されたというニュースを受け、多くの記者の前で行われました。世の中では「なぜ卵が立つのか」と大騒ぎになりました。

なぜ世界中の人が大騒ぎをしたのか。その理由の一つは、「コロンブスの卵」の話にあると言われています。アメリカ大陸を発見したコロンブスは、「ただ海を西に進んでいっただけじゃないか。」とある人が言うと、「ではこの卵を立ててみてください。」と卵を渡し、「卵なんか、立つわけがない。」と馬鹿にするその人の前で卵を机にぶつけて立たせました。その卵は、ゆで卵でした。「ずるい！ゆで卵を割るなんて。それなら、誰にでもできる！」と言うその人に、コロンブスは「そうです、誰にでもできる。しかしそんな誰にでもできることでも、最初にやろうとすれば閃きと勇気が必要です。」と答えたという逸話です。この逸話から得られる教訓はとても大切なものなのですが、このために、ゆで卵でなければ卵は立たないと多くの人が思いこんでしまったらしいのです。中谷博士は、「卵の殻の表面には小さいでこぼこがあり、このなかの三つの凸点によってできる面積の中に卵の重心からおろした垂直線が落ちれば卵が立つこと。」などから、立春でなくとも卵を立てることが可能であることを科学的に解明しました。そして、「問題は、そういうなんでもないことに、世界中の人がコロンブス以前の時代から今日まで、どうして気がつかなかったかという点にある。それは、五分間くらいついでに卵を立ててみようとした人が、いままで誰もいなかったからである。」と述べています。そこで、私も以前、自宅で実験してみました。始めてみると凸点や重心がうまくとらえられず、そう簡単には立ちません。机に向かって卵と苦闘すること約30分。「やはり無理か」と諦めかけた頃、ようやく立てることに成功しました。「無理だと思っていたことでもやってみるとできるのだ。」ということ、「できると言っても根気強くやり続ける覚悟が必要である。」ということを改めて実感しました。

コロンブスや立春の卵の話にあてはまるかどうかはわかりませんが、先日、こんなことがありました。一つは授業の様子を見て回っていたときのことで、みんなが問題に挑戦する中、半ば戦意喪失といった様子の子に近づき「やらないの？」と小声で問いかけると、「この問題はちょっと無理です。」と言って、解答が知らされるのを待っているようでした。型通りのやり方では解けない問題のようでしたが、解き方の解説を聞くと、「何だ。そんなやり方でいいの。それならできるじゃん。」とつぶやいて、ようやく練習問題に一生懸命取り組み始めました。

もう一つは、朝の校庭で長縄跳びの練習をしているところを見たときのことで、頑張っているなあと思いながら見ていると、周期的に列の進みが止まるグループがありました。どうやら縄に入るタイミングを合わせるのが苦手で、うまく跳べない子がいる様子でした。でも、その子は何度引っかかっても挑戦を繰り返し、まわし手の人を見守るように縄をまわし続け、他の子たちもコツを教えながら励ましていました。朝の時間もいよいよ終わりかと思ったとき、ようやくその子は縄を跳び越えることができました。みんなとてもうれしそうでした。

物事、最初から無理だ、できないと決めつけていては何も解決しないし、何もできません。「立春の卵」は、「まずやってみること、時には発想を変えながら、諦めないで粘り強くやるのが大切なんだ」ということを私たちに教えてくれているように思います。寒い日が続いていますが、春はもうそこまで来ています。残り少ない3学期、悔いの残らないように、何でも諦めずに粘り強く取り組んで、自分の力を伸ばしていってほしいと思います。ご家庭でも励ましの言葉とご支援をどうぞよろしくお願いいたします。



